

## 会議録（要点記録）

令和3・4年度 堺市南区政策会議 第3回育ち学び充実・健康長寿推進部会	
開催日時	令和4年5月12日(木) 午後6時31分～
開催場所	南区役所 2階 201・202会議室
出席委員	松久委員（部会長）、大島委員（職務代理者）、 栢場委員、小林委員 新野委員、中辻委員、 山口委員、黒田特別構成員
事務局 管理職員	堺市 佐小南区長 南区役所 植松副区长・谷口副区长 西村参事・上山参事 音田子育て支援課長・為野南保健センター所次長 西地域福祉課長・吉田生活援護課長・米村保険年金課長・ 喜多区政企画室長
議題	1. 開会 2. 議題 自己肯定感・自己有用感の醸成に向けた取組について 3. その他 4. 閉会
配付資料	・次第 ・資料1 「第2回育ち学び充実・健康長寿推進部会のご意見について (概要)」 ・資料2 「(仮称) 南区Well-beingプロジェクト概要 (案)」 ・資料3 「(仮称) 南区Well-beingプロジェクト事業一覧」 ・資料3参考 「(仮称) 南区Well-beingプロジェクト事業内 容」

審議状況

開会（午後6時31分）

1. 開会

区政企画室長

定刻になりましたので、ただいまから、堺市南区政策会議第3回育ち学び充実・健康長寿推進部会を始めさせていただきます。

皆様におかれましては、何かとご多用中のところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます、南区役所区政企画室の喜多と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本会議は公開となっており、会議録を作成するに当たりまして正確を期するために議事内容の録音を行っております。また、記録のため写真撮影を行います。何とぞご了承いただきますようお願いいたします。

また、前回に引き続き、堺市南区政策会議開催要綱第5条に基づき、特別委員として黒田研二様に本日もご参加いただいております。

なお、本日は徳委員が所用のため、欠席とのご連絡をいただいております。

ほかに、他部会ではありますが、ブランド戦略推進・魅力創造部会の構成員に変更がございましたので、ご報告させていただきます。

《南区政策会議委員の変更報告》

次に、市の人事異動により、今年度より新しく加わりました本市管理職をご紹介します。

《人事異動に伴う職員紹介》

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご確認ください。

《資料の確認》

以降の進行につきましては、松久部会長にお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いたします。

2. 議題

松久部会長

では、議題に入る前に、前回から時間が経っておりますので、議論の内容を振り返りたいと思います。

本部会では、自己肯定感、自己有用感の醸成をテーマとし、第1回部会では、乳幼児期、学童期、青年期を。前回、第2回部会では、成人、壮年期、高齢期を議論の中心に据えて進めてまいりました。第2回では成人から高齢期の世代の自己肯定感、自己有用感の醸成について検討するに当たり、南区をフィールドとした健康長寿を推進するさまざまな取組についてご説明いただきました。また、黒田特別構成員より「健康寿命の延伸と介護予防の推進」と題して、堺市における健康寿命や要介護等認定率の状況や大分県や箕面市の取組事例紹介、介護予防・生活支援サービス事業について、お話をお聞かせいただきました。

前は、各委員の皆様から十分にご意見をいただく時間がとれませんでしたので、南区役所にメール等お寄せいただき、集約していただいております。南区より説明をお願いいたします。

区政企画室主幹

南区からご意見につきまして説明させていただきます。お手元の資料1「第2回育ち学び充実・健康長寿推進部会のご意見について（概要）」をご覧ください。

いただいたご意見を大きく2つに分けており、1つ目は、南区における取組や黒田特別構成員による「健康寿命の延伸と介護予防の推進」の説明などについてのご意見です。2つ目は、スマートシティを推進していく中での健康分野へのICT等の導入についてのご意見となります。

1つ目に係る部分のご意見といたしましては、「南区子ども家庭支援対策事業」及び「MIMIちゃんLINK」について、各セクションが連携して進めていくことは、非常に有効だと思うので、ぜひ進めてほしい。また、放課後の居場所や保育事業といった子どもの施策についても層別による施策立案が必要ではないかという意見がありました。黒田特別構成員のお話については、大阪府の状況、堺市の状況が他自治体と比較され、分かりやすく非常に興味深い内容でした。健康寿命を「共通言語」として見える化することに、南区としても取り組んでほしいとのご意見がありました。生活習慣の定着には時間がかかるので、幼少期（子育て期）からの機会創出が将来にもつながるというご意見もありました。そして、年齢にかかわらず、同世代と多世代両方のコミュニティを持っている人は、心身ともに元気のように感じる。自己肯定感・自己有用感を維持し続けるには、自立できる仕組みと多様な人とのあたたかな交流が不可欠であるという本部会の根幹に関わるご意見もありました。

2つ目の健康・ヘルスケア分野におけるICT等の導入に係るご意見といたしまして、ICTの導入については、高齢化が進むが故、困難を抱えていることは否定できない。ICTの使い方について地域人材（子ども含む）から、高齢者に説明するという流れにすると、ICT導入だけでなく交流促進にもつながる。また、さまざまな情報の周知についてスマートフォンのLINEやアプリなどを活用できると便利だ。併せて地域の連携による情報の拡散、ネットワークの構築も必要だと思う、とのご意見がありました。

その他のご意見につきましては、資料をご参照ください。

#### **松久部会長**

ご意見を寄せていただいた委員の方で、補足などはございませんでしょうか。また、ほかの方で、ご意見等ございましたらお願いいたします。

では、議案の「自己肯定感・自己有用感の醸成に向けた取組について」議論を進めてまいります。

これまでの部会で自己肯定感・自己有用感を醸成していくことが、全ての世代で非常に重要であることを、委員の皆様とも共有したところです。このことを踏まえ、南区から自己肯定感・自己有用感を醸成していくため、検討されている取組について説明をお願いしたいと思います。

#### **区政企画室主幹**

資料2「（仮称）南区Well-being（ウェル・ビーイング）プロジェクトについて」のご説明をさせていただきます。

これまで本部会では、南区基本計画、基本方針の推進に向けて、自己肯定感・自己有用感の醸成をテーマとして議論していただきました。自己肯定感・自己有用感の醸成は、乳幼児期から高齢期まで全ての世代にとって重要であり、ライフステージの特性を捉えた支援が必要と感じています。

これまでの議論を踏まえ、「（仮称）南区Well-beingプロジェクト」を区として打ち出し、区役所の各部署が重層的に連携し合いながら、南区基本計画基本方針2に掲げております「ひとがいきいきと輝き、健やかに成長する

ことができる都市」の実現を推進したいと考えております。

お手元の資料2「(仮称)南区Well-beingプロジェクト(案)」をご覧ください。

これまで議論していただいた自己肯定感・自己有用感の醸成というテーマを具体的な取組としていくに当たり、今回、「Well-being」という言葉をプロジェクトの名称に入れさせていただきました。「Well-being」とは「良くあること」、「幸福」などと訳されることもある言葉で、南区では区民にとって南区での生活が幸せで満足できる状態、自分らしく生きがいを感じて生きることができる状態をあらわすこととします。

南区基本計画にある人が中心、区民が主役という考え方を踏まえ、当プロジェクトを～ひとがまんなか Well-beingの実現～と表現しています。

本プロジェクトは、ひとがいきいきと輝き、幸福で心身健やかに暮らせる社会をめざす。また、SDGsの目標を踏まえ、誰一人取り残さない個に寄り添った「最大多様」の取組をめざすことを目的としています。

内容としては、南区において実施している子育て・教育・健康寿命延伸など、「Well-being」につながる取組を集約し、世代別・事象別など重層的に体系化・整理して、多様なメニューを提供するものです。

本プロジェクトとして大切にしたい視点としては、『乳幼児期から高齢期の全ての世代を対象にする。』『個に応じたメニューや多くの選択肢を検討する。』『自己肯定感醸成のための「居場所(安心な場所)と出番(自分の役割)」を意識する。』『ICT等先端技術の活用を検討する。』としています。

提供するメニューの具体例として、部会でこれまで議論いただいた際のキーワードなどとする事とし、「子どもの生き抜く力の育成・養育者への支援」「教育・福祉・地域をつなぐ取組」「健康の維持増進(生活習慣の形成)」「フレイル予防・介護予防、高齢者の生きがいにつながる取組」「障害者の社会参加、生きがいにつながる取組」など、これらをキーとして施策を体系化、整理したいと考えております。

当企画案の目的や内容、視点についてご意見をいただきたくよろしくお願いたします。

**松久部会長**

それでは、今ご説明いただいた内容についてご意見をお願いします。いかがでしょうか。大島委員よろしくお願いたします。

**大島委員**

かっこよく名前をつけていただいているんですけど、「ひとがまんなか」ってこれを見る人の対象は誰でしょうか。私たちだったらいろいろ説明いただいて分かるんですけど、一般の方にしたら「ひとがまんなか」っていうたら何かかなと思うんですよ。それよりもひとがいきいきと輝けて全部書いてあげるほうが親切なんじゃないかなと思います。カタカナの表現によくされるんですけど、このカタカナの表現についていくのが大変なんで、もう少しカタカナを減らしていただきたいなという感じがします。よろしくお願いたします。

**松久部会長**

いかがでしょうか。

**区政企画室長**

ご意見ありがとうございます。

「ひとがまんなか」っていうところにつきましては、基本計画にありますよう

に「人が中心」というところを表現したいというところでこのような表現を使わせていただいております。また、カタカナにつきましては、大島委員がご指摘のように、なかなか伝わりにくい、分かりにくいというようなご意見もあるかと思っております。この点につきましては、注釈を入れるなり、分かりやすい表現も考えられるのかと思っておりますので、検討させていただけたらと考えております。

**松久部会長**

ほかによろしいでしょうか。

**新野委員**

「ひとがまんなか」の「ひと」、それから目的の1つ目の「ひとが」の「ひと」の、ひらがなの「ひと」っていうのは、意図的な表現をされているのか伺いたい。これが1つ目でございます。

「Well-being」は非常にすてきな言葉だと思うんですけども、例えば両かつこの中に南区が表現したい「Well-being」の訳や意味がつくと、この「Well-being」という言葉も使いながら、その「Well-being」っていうのは何を示しているのかご理解いただけるのかなって感じました。

それから、目的のところは2つ目なんですけれども、「誰一人取り残さない」という、「～しない」という表現よりは、「～するんだ」というようなポジティブな言い回しはいかがでしょうか。例えば「～しない」よりも、「～する」というような表現がすごく前向きなのかなという感じがしております。一旦こういった言葉が表に出ますので、いろんな方がより前向きに捉えることもできる言葉の選択が必要なのかなと感じております。いかがでしょうか。

**区政企画室長**

表現につきましては、確かに「Well-beingが、南区ではこういうことを意味しているんだ」というところを入れるとより分かりやすくなるなど今感じたところです。検討したいと思っております。

また、「誰一人取り残さない」というところにつきましては、SDGsからのワードでございます。今、ご指摘もいただいておりますので、事務局で検討させていただきたいと思いますが、SDGsを意識した表現を使い、周知していくことも重要なことではないかと考えております。

そして、最後になりましたが、「ひと」がひらがな表記であることにつきましては、基本計画の基本方針のところでも同じように「ひと」をキーワードとして、ひらがなで入れさせていただいております。こちらの南区Well-beingプロジェクトにつきましても、同じ形でさせていただいたところでございます。

**松久部会長**

ほか、いかがでしょうか。よろしく申し上げます。

**小林委員**

まず、プロジェクト名ですが、南区基本計画は、「ひと」が中心と、もうひとつ、「区民」が主役という言葉が入っているかと思っております。すごく南区の大事な大事な大事な地域の資源なのかなと思っております。住民、自立していて積極的に地域に働きかける区民の皆さん自体が、南区の地域の資源だと思うので、この表現をどこかに入れるなり、イメージで表現するなりされたほうが、そのメッセージが伝わりやすいのかなと思っております。今の内容だと、全て南区役所が市民に対してす

るサービスのようになってしまうので、新しく入ってくる住民さんにも一緒に関わりながら、南区をよくしていくというようなメッセージが中に入っていくといのかなど思いました。

#### 区政企画室長

今、ご指摘いただきましたように、基本計画でも「『ひと』が中心、『区民』が主役」というところを非常に重要なポイントと考えております。今回、「『ひと』がまんなか」と表現をしているんですけども、「区民」という視点につきましても、何らかの検討をしていけたらと思っております。

#### 松久部会長

ほかにあるでしょうか。

#### 黒田特別構成員

黒田です。

この内容の3行目に、世代別・事象別など重層的に体系化・整理をしていくということが書かれているんです。一昨年、社会福祉法が改正されて重層的支援体制整備事業が法律に盛り込まれました。この事業に取り組む自治体に交付金をつけるといった事業が進められてますけど、そこでの考え方は「世代別」とか、あるいは、「分野別」というのではなくて、「分野横断的に」「全世代を対象とする」事業を組み立てていくという考え方なんです。この国が進めていこうとしている重層的支援体制整備事業の考え方も反映させていった方がいいのではないかと思えます。

#### 南区参事

西村でございます。ご意見ありがとうございます。

資料3「(仮称)南区Well-beingプロジェクト事業一覧」においても、それから資料2の事業内容の箇所においても、確かに世代別・事象別など重層的に体系化・整理してということ載せております。現在の状況につきまして、そのようにまとめたほうが一番分かりやすいかなということこのように形にさせていただいたんですけども、その整理の仕方がかえって国が進める、世代や分野を横断するような取組に逆行するような感じに映ってしまったのかなと認識しております。

考え方としては、そういうつもりは全くございませんでして、重層的な支援体制の整備につきましての重要性は十分認識しております。例えば、第2回目の会議のときにご報告させていただきました南区保健福祉総合相談体制、愛称「MIMIちゃんLINK」という制度につきましては、障害であったり高齢であったり、子ども、子育て、生活困窮とか、あらゆる分野について、事象別、年代別に、個別に対応していると対応ができないというような状況もございまして、そのことも重々認識した上で、分野や世代を横断した相談体制を構築するという取組を南区としてほかの区に先駆けて始めたところでございます。

実際にその重要性は認識しておりまして、具体的に施策を考えていくに当たり、本庁部局、それから市ではないですけども地域福祉につきまして重要な役割を担っていただいております社会福祉協議会と連携して、調整も行った上で、今後事業等を具体的に考えていきたいなと思っております。

この資料のまとめ方を今後どうしたらいいかということにつきましては、お時間をいただいて、もっと考えさせていただきたいなと思えます。

#### 松久部会長

黒田特別構成員、いかがでしょうか。

**黒田特別構成員**

そういうことも視野に入れているというお話なんですね。本庁のほうには国の重層的支援体制整備事業を堺市でも実施していくということで、本庁の機構も少し昨年度から変えておられたんじゃないですか。

**南区参事**

そうですね。地域共生推進課という課ができて、地域共生推進課とも連携をさせていただいています。この「MIMIちゃんLINK」という南区版の重層的支援体系の制度の構築のときもいろいろアドバイスをいただき、連携しながら制度をつくっております。

**黒田特別構成員**

重層的支援体制整備事業っていうのは、これまでの福祉事業が子ども・児童、あるいは障害者だとか高齢者だとか縦割りだったものを、もっと総合的に、包括的に進めていくという考え方ですね。それは一つの世帯に、例えば8050世帯ってというような言い方があるけれども、高齢者とひきこもりの人が同居してる。あるいは、子どものケアと高齢者のケアでダブルケアが必要な世帯がある。いろいろな複合的な問題に対応できるように今までの縦割りの福祉の制度を変えていこうということを出ています。ですからそういう視点も必要ではないかということなんです。

**南区参事**

その視点も忘れないよう取り入れながら施策の検討の中に入れていきたいと思っています。

**黒田特別構成員**

それからもう一つ、この南区「Well-beingプロジェクト」という言葉についてです。そのプロジェクトの概念と資料3にあるいろいろな事業について、プロジェクトというのが一つの取組や事業と捉える人もいます。このプロジェクトは、その中にいろいろな取組や事業を含んでいるというものですよね。だから、例えば、「南区Well-being総合プロジェクト」とか、もっと広い範囲の総合的なものだというようなことを表現できる言葉がいいんじゃないですか。

**松久部会長**

いかがでしょうか。

**区政企画室長**

黒田特別構成員がおっしゃっているように、今回プロジェクトはここに書いてあるいろんな事業をイメージしてつくらせていただきましたが、やはり黒田特別構成員がおっしゃっていただいたようなイメージを持たれる方もいらっしゃるということで、その辺り少し事務局のほうで表現の方法を考えさせていただけたらと考えております。

**松久部会長**

よろしいでしょうか。  
では、ほかにどうでしょうか。

資料3のほうにも少し話題も出てまいりましたので、引き続きこのプロジェクト、資料3のプロジェクトについてご説明いただけたらと思います。

#### 区政企画室主幹

資料3「(仮称)南区Well-beingプロジェクト事業一覧(案)」につきましてご説明させていただきます。

南区役所が実施する子育て、教育、健康寿命延伸などWell-beingにつながる取組を集約し、世代別・事象別に整理したものです。

横軸には年齢を、縦軸には各分野を項目としております。具体的な事業名をそれぞれに当てはめ視覚化することで、それぞれのライフステージやそれぞれの事象に応じて活用していただけるよう提供していきたいと考えています。

事業については現時点で全て網羅できているわけではなく、体系化整理の仕方についてのイメージをお示ししているものです。本事業一覧の内容を区民の皆様に分かりやすく伝え、南区で実施している事業を知っていただき活用していただけるような表現方法や打ち出し方が効果的であるか。具体にご意見をいただきたくどうぞよろしくお願ひいたします。

#### 松久部会長

それでは今ご説明いただいた内容についてここでは一人ずつ全員にご意見いただけたらと思っています。大島委員からどうぞよろしくお願ひいたします。

#### 大島委員

これを見てますと、子育てが多くて高齢者50歳以降は何の相談の記載もないんですけど、それってどうなのでしょうね。社協とかも高齢者のことをいろんな形で、お世話なり相談事をしていきますので、それも一緒に載せていただいたほうが分かりやすいかなと思うんです。そうでないと、高齢者がどこに相談に行けばいいのかなっていうことになりますので、その辺、社協さんと包括さんと話し合ってもらって、ここに載せていただいたほうが、市民の皆さんが相談しやすいかと思ひます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 区政企画室長

大島委員からご指摘いただきましたように、区の関連機関と連携した事業も区役所にはたくさんありますので、その辺りのことにつきましても、少し検討させていただきますけたらと思ひております。

#### 松久部会長

では、小林委員どうでしょうか。

#### 小林委員

初見の印象としては、多分住民さんは分からないだろうなっていうのが率直な感想です。切り分け方もこれまでの既存の子ども、保健、母子保健、で高齢者みたいな分け方で、多分分けてくださっているんだと思ひます。ただ現状を整理するベースとしては、整理されただけでも有用なのかなというふうに思ひました。

子どもの分野については子ども自身への働きかけと、養育者への働きかけ、それからそれをつなぐ機関がどう連携していくかみたいな分け方で、高齢者の分野では、成人については健康の維持増進というふうにざっくりまとめられ、フレイル予防・介護予防のところは高齢者だけ。でも、高齢者はケアが必要なのであればケアする人への支援みたいなものでも分けた方が良くと思ひます。どこに自分があるかを住民さんは分かりやすいのかなと思ひます。

子どもの分野は対象年齢整理の軸が0から5歳とそれ以外というように変動していて、誰への何なのかっていうのが分からなくなってしまうので、こういう表にするんだったらきちんと軸を定めてそこからぶれないようにするか、中分類みたいなものも一つ加える方が混乱しないのかなと思います。

こういう二軸にすると、分かりやすいようなイメージになると思うんですけど、この形につくってしまったら全員の頭が固まってしまうので、いろいろな縦軸と横軸を設定して、どういう方法で分けるのかとか、個別支援なのか、講座だったり体験なのか、広報啓発だけなのか、ネットワーク形成をするのか、みたいな視点での分け方をしたりとか。あと、誰が提供するのかという事項。どの分け方が一番住民さんに伝わりやすいのかってことにも意識を向けていただけたらなと思います。

今さっき大島委員がおっしゃったように社協だけじゃなくて、特に子育て支援などはNPOや民間や社会福祉法人さんもやってるようなこともあったりすると思うので、住民さん向けに発信するときには、南区役所がやってる事業っていうだけの切り口の見せ方ではなくて、住民の方から見たら堺市がやっていようが、社協がやっていようがNPOがやっていようが、南区から発信されたものは南区で受けられるサービスっていう感覚だと思うので、そこは二の次なのかなと思います。誰がやってるかっていうのは正直、住民にとっては二の次であって、サービスを受ける側としては何をしてくれるのか、どんなことをしてくれるのか、誰向けに何をしてくれるのかっていうことのほうに興味があると思うので、どういう見せ方をするかというよりは、まずは下準備で整理した上で、どんな見せ方をしたいのかということを考えないと、今までとは全然違う価値観のもの、枠組みのものを提供しようとしてるので、皆さんの頭の中を統一させないと、なかなか受け入れてもらえないんじゃないのかなっていうのが正直な反応です。私の中での印象はこんな感じです。住民さんはプロでもないし、そんな小さな1個1個の事業を覚えてるわけではないので、受け入れてもらうためには、もう一步工夫が必要になっていうふうに感じました。

#### 区政企画室長

今のご指摘、非常にありがたいなというふうに思いながらお聞きしたところです。先ほどからもお話がありましたように、ここには区役所が実施している事業だけしか記載しておりません。今ご指摘いただきましたように市民の方にとってはいろんなところでされている事業、南区をフィールドとした事業については網羅していったらいいっていうご指摘だと思います。確かに必要と思っているのですが、ただNPOの事業ということになると、かなり幅が広がってしまって、情報の信頼性の確保や情報を得る手段を行政として持ってないところもございます。社協や区の関連機関ということでありましたらある程度情報も収集できるのかなとおもいます。まずはその辺りから進めて行けたらなというふうに思っているところをございます。

またその上で、ご指摘いただきましたように見せ方につきましても、もう少し工夫があるんだろうなと感じたところをございます。

#### 松久部会長

新野委員、よろしく願いいたします。

#### 新野委員

私はこのプロジェクトの事業一覧を拝見して、非常に明確で分かりやすいという印象を持ちました。例えば、堺市の広報を拝見していても、保健センターは「この日にこれをやります」というような文字で表現されてるんですけども、それを並べてみるができなくて、この時期にこれをやっておられるなっていう

ことしか分からないので、このようにして、年齢で区切りながらこの年齢ではこのプログラムが対象になる、この事業が対象になるんだっていうのがよく分かると感じました。

やはり紙での表現ですと限りがあると思うんですね。字が小さくなりすぎて見えにくいという問題があったり、ウェブ上に出ている画面でも見にくい、見やすいっていう問題もあるかと思います。ですので、例えば、事業番号をつけておいて自分の年齢をまず見て、そこに記載のある事業内容を見ることでより詳細なことが分かるような表現をするか、もしくはどこかにリンクするようにするなどしてはどうでしょうか。

もう一つ、13歳から19歳のしぼりが、今18歳成人云々っていうところになってきておりますので、この中には「(18歳まで)」と記載されているものもございまして、ここが20から29歳にするのか、13歳からこれ18歳までにして、18歳から29歳にするのかっていうところの、この年齢の切り分け方っていうところもお考えいただければなというふうに思っております。

「メニュー」という言葉が引っかかっております。例えば資料2のところを書いてあった「多様なメニューを」という「メニュー」が、私すごく言葉としては引っかかっております。ここが例えば「事業」や「支援事業」であるとか、資料3に反映されている言葉なんかもうまくはまっていると、より密接につなげやすいのかなというふうに感じました。

資料3から少しはみ出るかもしれませんが、例えば高齢者の方たちの事業があって、健康に関する講座とか運動教室とかっていうのが南保健センターで実施されており、何回かコース設定があって、恐らく最終回には修了というような形式で、何か修了書のようなものをもらえるとと思います。修了した方がそこで終わりというわけではなくて、修了者が再び学べる機会を持つために卒業生としてのメリットとして、リーダーバンクのようなところに登録し、その方たちも「財」また「サポーター」としてプログラム充実に向けて活用していくっていうのはどうかと思っております。やって終わりではなくて、またもう一回復習したい方がいらっしゃったら、サポーターとして自分も学びながらまた支援者として育成されもう一回学習するという機会にも恵まれるのかなというふうに考えました。

#### 区政企画室長

資料3のように表をつくらせていただいて「南区Well-beingプロジェクト」ということで打ち出すことによって、より区の施策やいろんな取組が分かりやすく、区としてこういうことを推し進めるとういことをアピールできるのかな、伝えることができるのかな、というところでこの事業を進めたいと思っております。そんな中でこういう整理が分かりやすいとご評価いただきましたことにつきましては、本当にうれしく感じているところです。

ただいまご指摘いただきましたように、見せ方につきましてはいろんな工夫が必要だと改めて感じております。先ほどからも各委員の皆様からご指摘いただいておりますように、検討を進めて分かりやすく、いろんな方に見てもらいやすいような形を考えていく必要があると思っております。

またこういうふうに整理することによって、どの辺りが事業的に弱いのかということも分かりやすくなるのかなと思っております。今ご指摘いただきましたような、リーダーバンクやプログラム充実というようなところにもつなぐことができるのかなって思っております。その辺りも、順次ご意見いただけたらなというふうに思っているところです。

#### 南区参事

西村でございます。

確かに、おっしゃるように18歳から成年ということに今回からなっております。

すし、その辺も反映させていきたいと考えております。

それから講座の修了者の方にまた別の場で地域に入っていていただいているということにつきましても、実際に自己肯定感・自己有用感につながるものでもありますし、また、そういう技能を身につけたことを地域で広めていただくことにつきましては、地域での活動の活性化や地域共生社会の実現について本当に重要な取組であることを認識しております。

今、現に保健センターの健康づくり推進委員会、自主グループにつきましては、そういう活動も始めていただいているんです。今後もそういう取組を広げていく必要があると考えております。

#### 松久部会長

中辻委員よろしくお願ひいたします。

#### 中辻委員

今回のプロジェクトの内容を見たときに、はっきり申し上げて欠落している部分があるなと思っています。それは何かと言うと、特に男性なんですけども、子育てに関することがほとんど行われてないというか、分かってない男性が多いんです。もう10年くらい前から私も認定こども園ですけども、満1歳、0歳については必ず1名以上、離婚されて入園されるシングルの保護者のお子さんが入ってこられます。男性の育児能力がむちゃむちゃ低いと感じるんです。実際に男性は子育ての経験もなく、実際自分の父親の姿しか見てないからどうしていいのかわからないと。それでどうなっていくのかというと、産後クライシスということがあります。産後危機になってしまって、離婚するという可能性が高いという問題です。実際に産後、特につらかったことの2番目としてパートナーにまつわることで、つまり旦那に関するものが挙げられています。男性に対すること、父親に対することを考えて施策を立てないと大変なことになるのではないかな。もっともっと離婚が増えてくんじゃないかなということですよ。

もう1つ、男性の育児休暇について、もっと増やせよという流れがありますが、実際に分かってない男性が取ったとしても無意味なんですよ。それが今取ったとして、じゃあ何をやるのか。子どもに対して、母親に対して、どうしたらいいのかわかってない男性が育児休暇を取っても意味がないというのが、ずっと私の中でありまして、そういう点で今回のこの資料を見ていると、父親になるとか母親になるための施策が全くないので、できたらこういう施策も入れていただきたいなと思います。特にどんどんどん男性の育児参加が求められている中で、実際にそれが理解できて参加できるような父親が何人いるのかと危機感を持っています。だからそういう意味で今回、産後クライシスを解消するためにということで、プロジェクト内容に入れていただきたいなと思っています。

#### 子育て支援課長

子育て支援課の音田でございます。私も保護者とお話する中で、家庭の中での保護者、お父さんお母さんから、いろんな形の困り事、相談の一つとしてお伺いしています。プロジェクトの「養育者支援」の中で、子育て講座と、相談として、男性、女性、特にお父さん、お母さんの講座を以前より実施しているところではございます。ジェンダーの視点もあると思いますが、やはり「男が」「女が」ではなく、「子どもを育てる周りの人間が」という形で捉えていかなければならないのかなと思っています。

特に今、中辻委員がおっしゃったように、いろんな形で子育てに関われるような体制はつくっていかないといいんじゃないかというご提案は、新たな視点というよりは、むしろ今後みんなが持っていないといけない視点だということで、共通認識し肝に銘じてプロジェクトも進めていきたいなと思っています。

す。

**松久部会長**

山口委員お願いいたします。

**山口委員**

この資料3ですね。事業一覧、私も非常に分かりやすいなど。人の人生と云いますか、年代ごとにどういった事業があるのかってところで、こういうことがあるんだな、最初の第一歩の切り口として分かりやすいのかなと感じております。

私は中学校に勤務しておりますので、どうしてもこの年代でいきますと13から19歳の枠のところに目が行ってしまいます。その中でちょっと興味深かったのが「子どもの生き抜く力の育成」というところです。生き抜く力を育てるワークショップ事業あるいは、学校保健との連携ということで、学校の総合的な学習などとの位置づけでいろんなことが考えられるのかなと思います。もっと深いところで考えますと、小学校と中学校の連携による9年間の学習という視点もあるのかなと思います。その地域の中でこういった子どもを育てようという視点とマッチすれば、非常に深い学習ができるのかなと興味深く感じました。あと、子育てに困っている保護者、あるいは何か困っていることに気づいていない保護者も結構いらっしゃるのかなと思います。こういった支援事業が入っているかも分からないが、ちょっと分かりにくいので、そこの拡充をしていって、そういった人たちが相談しやすいような事業になると前へ進むのかなと思います。

子どもの中には家で親に対していい顔をしておるんですけども、実は本音のところを言うと、こんなことやあんなことがあって実は親が嫌なんです、いい顔をしないと、親が喜ぶような行動をしないと、怒られるので非常に怖いんです、という子どもさんも実はいます。そんな中でそういった保護者に対する支援の在り方というのか、新しい方法、分かりやすい方法というのがこれから課題になってくると思います。学校としても「こういったことがありますよ。」と紹介できるようなものがあれば非常にありがたいかなというふうに思っております。

あと、資料の「健康の維持増進」のところ、令和7年度から中学校で完全喫食制が始まります。今、食育ということに結構注目が集まっていると思いますので、給食のことと健康という面で何か結びつくものがあれば、これも面白いのかなと感じました。

**松久部会長**

栢場委員ご意見いただけたらと思います。

**黒田特別構成員**

私のほうからもいいですか。

**松久部会長**

それでは、黒田特別構成員先に願います。

**黒田特別構成員**

今、資料3のことについての意見を出し合ってるんでしょうか。

**松久部会長**

そうなんです。

#### 黒田特別構成員

そしたら、それについての私の意見です。

子どもあるいはその保護者そして成人期の健康維持増進、それからフレイル予防とか高齢者への支援、対策など、そのような区分で世代別にまとめようという書き方になっているんですけども、先ほど私が言いました全世代を対象とした事業や分野を横断した事業というものが、この中には十分書き込めないですね。

もう1つ、この資料3は、今、行政が行っていることが中心であって、先ほど話題にもなった区民が主体とか住民が参加して行う取組が、あまり書ききれていないと思いました。

前回の話の中で「地域のつながりハート事業」に触れましたけれども、この事業は、社会福祉協議会だとか各校区福祉委員会だとかが取り組んでいる事業ですよ。社会福祉協議会が取り組んでる事業もあまりここに書かれてないというご指摘がありましたけれども、日常生活圏域コーディネーターだとか、あるいは生活支援コーディネーターと呼ばれるような職種が今配置されるようになっている。そういう人たちは住民が取り組むいろいろなプロジェクトを支援しているだろうと思います。それは住民が取り組むプロジェクトなんですよ。そういう視点が必要だろうと思います。「地域のつながりハート事業」の中には子ども食堂も含まれていたと思うんですけども、子ども食堂といっても子どもだけじゃなくて、それが多世代交流の場にもなる。分野横断的に全世代を対象とした取組をもっといろいろと開発していくとか、そういう芽があればそれをうまく育てていく、というような視点があるだろうと思います。

それと、そういう事業を進めていくためにはプラットフォームが必要だという議論があるわけですよ。プラットフォームっていうのは、いろいろな主体が自由に意見交換できて、アイデアを発展させていけるとか、協力関係を築いていく場であり、そういう関係づくりの場があるわけですよ。そこには行政はもちろん関わるわけですけども住民も関わる必要があるでしょう。それと、保健、医療、教育さまざまな専門職もそこへ関わっていくことができればと思います。医療があまりここでは取り上げられていないなと思います。医師会が区レベルとか日常生活圏域レベルで入っているのではないんでしょうかね。プラットフォームの事業としては、19歳までの教育・福祉・地域をつなぐ事業のことが書かれており、子育てを支援するためにはこういうプラットフォーム事業が必要ですが、全世代を対象としたプラットフォーム事業というのも構想されていいんじゃないかと思いました。

#### 松久部会長

事務局いかがでしょうか。

#### 南区参事

西村でございます。

こちらの資料なんですけれども、大島委員や小林委員にもご指摘をいただいていますように、確かに南区役所が今現在実施している事業を書かせていただいております。社会福祉協議会や本庁各部局における、こちらが把握している限りの事業は、南区民を対象としている事業として、お示ししていったほうがいいのかと認識したところでございます。まとめ方につきましては、また本庁や社会福祉協議会のご協力いただきながら検討していきたいと考えております。

校区福祉委員会を中心として、「地域のつながりハート事業」では本当に広くいろんなことをしていただいているところなんです。そのことを、全く書けていないので、その辺も含めて整理をしていきたいなと考えております。

それから日常生活圏域コーディネーターは、実際はコミュニティソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターの2つの役割を合わせて日常生活圏域コーデ

ィネーターであり、これは堺市独自の制度です。プラットフォームにつきまして、特に生活支援コーディネーターの業務としまして、協議会の設置という役割があり、そういう言い方でなくても、もともとその地域の資源を生かしてコーディネートしていただくという役割でもありますので、その辺は社会福祉協議会などと連携をして進めていく必要があるのかなと考えております。

おっしゃっていただきましたとおり、地域・福祉・教育のつながりの中に医療関係者の方も入っていただくことについて、そのほうが実際に心強いというだけじゃなくて、必要性も感じているところではあるんですけども、実際このコロナ禍において、どこまでご協力をいただけるのかとかいうことも問題としてありますので、プラットフォームとしてどのようなことができていけるのかということにつきましては、今後、健康福祉局を中心としまして、関係部局と調整をしながら考えていく必要があると考えております。

**松久部会長**

黒田特別構成員いかがでしょうか。

**黒田特別構成員**

了解しました。

**松久部会長**

では、栢場委員お願いいたします。

**栢場委員**

この資料を見て、最初に自分の年齢のところを見ていたのですが、自分自身がどの事業に関わるのかとか、逆に自分の親とか家族とか関わってるのかっていうのが、よく分からなかったです。例えば、子育てに関する相談講座は「養育者への支援」という項目を見て、自分の親世代の人が直接事業に関わっていくのか分かるんですけど、多分ホームページなどをインターネット上で表示したとき、スマートフォンとかで見てる人は横幅など、多分見づらいと思うんですよ。だから、結局自分の年齢のところしか見ない人とか、多分出てくると思います。だとすると、例えば「養育者への支援」について、大体何歳から何歳ぐらいの人が養育者の枠組みに入るのか。実際にその20代とか30代、40代の方がお子さんをもって、学校にお子さんが通ってる方が、自分の年齢のところを見て、どこに当てはまってるのかっていうのを知りたかったときに、見逃してしまうところがあるのではないかと思います。だから「養育者への支援」のところだったら、0歳から19歳の枠組みじゃなくて、20歳から49歳とか、そこら辺のあたりに書いたほうが見落とししたりすることはなくなるのかなと思いました。

あと、「健康の維持増進」を見て思ったことがありまして、13歳から19歳のところが気になってしまって、子どもの歯相談室っていうのが概ね15歳までになっていて、16歳から19歳も、歯についての相談や考える機会があってもいいんじゃないかなと思いました。

あと、この13歳～19歳とかの間って、部活などをやってる人はちゃんと運動しているし、日常的に運動していて大丈夫だと思ってるんですけど、部活とか体育の授業とか、そういう機会がないと運動しない人も多分いるんじゃないかなって思って、得意不得意とか好き嫌いとかがあると思うので、そういう人もいるなら、健康に関する運動教室みたいな、簡単に参加しやすいような事業とかあってもいいんじゃないのかなと思いました。

**松久部会長**

スマホで見たときに見にくいんじゃないかという、若者ならではのご意見、ありがとうございます。いかがでしょうか。

**南保健センター主幹**

保健センター檜本と申します。

先ほど言っていたいただいた歯科のことなんですけれども、この資料上書けなかったのですが、子どもの歯の相談室としてやっているのが概ね15歳までで、それ以降の年齢の方は成人の歯科相談として来ていただくことはできるので、実際全世界に歯科の相談が載っているという状況になります。

運動の講座についても、中学生は義務教育となりますので、それ以降の年齢の方は時間が合えば来ていただくことは可能です。9時から5時半までの事業となり、中学生が学校を休んで来てもらうわけにはまいりませんので、それ以外の方については時間が合えばご相談していただければと思っております。

あと、少し戻るんですが、申し上げてよろしいでしょうか。

**松久部会長**

はい、どうぞ。

**南保健センター主幹**

先ほど、山口委員から学校保健の給食のことでご発言いただいたのですが、南保健センターに管理栄養士がおり、学校保健と食育の連携をしていきたいということで、学校保健給食委員会など行かせていただいております。またその中で一緒にできるものがあれば、ぜひさせていただければと思います。

中辻委員がおっしゃっていただいた、お父様の育児参加という部分では、保健センターで妊娠中から切れ目ない支援を行っており、必ず母子手帳を取りに来所していただいて、面接しております。その中でパパの育児支援ガイドブックをお渡ししたり、最近では妊婦教室に、ほぼほぼお父様が一緒に来られたりしており、逆にシングルの方への配慮がいるのではないかという状況です。

あと、中辻委員がおっしゃっていたようなことはたくさん聞いておりまして、パパの育児教室という市の事業も初めの面接のときにご案内させていただいている状況です。

**中辻委員**

これ、男性は来られますか。

**南保健センター主幹**

妊婦教室は、ほぼ8割、9割ぐらいがパパ連れです。

**中辻委員**

来てますか。

**南保健センター主幹**

はい。

**中辻委員**

現実的に、理解されていますか。理解してない父親も多いんですけどね。

**南保健センター主幹**

来られている人について、こちらで網羅してる人数は少ないですが、来てる方

には理解していただきたいと思っています。中には来て腕を組んで見ていらっしゃる方や連れられて来たという方もいらっしゃいますけれども、少しずつ啓発などしていけたらと思います。

#### 中辻委員

私自身もずっと毎年父の日の前の日に、園長によるパパの講座をつくってるんですけど、来ないです。ケーキとかコーヒーつけるから来てくださって言うても来ないです。お母さんのほうは行かせますと言うけど、来ないんですよ。本当に分かってないお父ちゃんとかパパというのがむちゃむちゃ多いですよ。ママとパパのずれというのが、今は昔に比べてもっとひどくなってますよ。お父さんの育児能力がむちゃむちゃ低下してますよ。

#### 南保健センター主幹

感じることはありますので、ぜひこちらでも取り組んでいけたら、と思います。

#### 中辻委員

子どもは幸せになるために生まれてくるわけですけど、そういうこと自体が父親とか母親によってできない。現実を何とか変えないと、本当に無意味な男性の育児休暇になると思います。ほんまに危惧してるんですよ。

#### 松久部会長

ありがとうございました。では、全員にご発言いただきましたが、まだちょっと言い足りてないということがありましたらどうぞ。

#### 小林委員

皆さんのお話を伺って、まず10代の運動、健康に関する講座、運動教室について思ったことですが、多分1回目のときから不登校の話が出ており、学校に行けないからこそ区役所でサポートしていただけるような講座をつくっていただくことも一つなのかなと思います。

男性の育児参加について中辻委員が熱烈にお話していただきましたが、私もそれは感じていて、何故起こっているのかなってずっと思っているんです。スマイル訪問に行かせてもらっても、6か月の時点で、もう私は別れますというお話を何度も何人にも聞いています。別れてはいないけれども、何故産後でしんどい私が夫まで教育しないといけないんですかっていう愚痴もあります。聞くと、そのお母さんのお父さんも育児には参加してなかったから、どんなふうに伝えたらいいか分からないですっていうのが、お母さんたちの正直な声です。褒めたら伸びるよという話をするんですが、そんな余裕はありませんというのが、今のお母さんたちです。私たちと同じ世代、今50代くらいのママ友さんたちは、そういうのも仕方ないと思いながら、そんなもんだというイメージで、お母さん同士でどうにか助け合いながら来ていましたが、今のお母さんたちは働きながらのワンオペなので、とてもそんな余裕はないし、お母さんたちも実は赤ちゃんの育て方を自分の赤ちゃんを産んで初めて触って、経験して、覚えていくっていうのが実際なので、できたら中学生くらいから赤ちゃんに触れるような機会を南区で積極的に設けていただきたいとここで提言したいです。どうしても学校側がリスクを考えられるということがあると思うのですが、中学生たちは実際赤ちゃんが来ると、さっきまで廊下で走り回っていた子たちも静かになったり、「ちゃんと掃除せなあかん」、「こんな感じでいいか」とか男の子でもそういう問いかけをしたりする子がたくさんいます。先ほど中辻委員がおっしゃっていましたが、男

の子でも上手な子はいます。なぜかといえば多分、お父さんが育児をしているおうちではそれをロールモデルで見てしっかり学んでいるからで、お父さんが関わっていないおうちのお子さんは、女の子だったら夫、パートナーに伝える術を知らない、男の子だったらどう関わればいいのか分からないというのが実情なのかなと思います。ぜひそういうロールモデルを見せるような事業を南区役所、行政と教育が連携して行っていただけたらなと思います。

**中辻委員**

賛成します。

**小林委員**

本当にね、苦しそうなんですよね。

特に2人目産まれてから、もうにっちもさっちもいなくなる。1人目のときに上手だったお母さんが、2人目産まれた途端にどんどん頬が痩せこけていくっていうのを、何人も見てるので。1人じゃなくて2人産んでほしい、3人産んでほしいのであれば、社会全体でのサポートがいるのかなと思います。ぜひ中辻委員のようなシニア世代のお父さんロールモデルが積極的に地域などオープンな場所に出ただいて、どんなふうにお父さんが子どもと関わるかという姿を見せていただけたらなと思います。

**松久部会長**

ありがとうございました。

もっともっとご意見をお聞きしたいところなんです、残念ながらちょっとお時間が迫ってまいりました。

まとめに移りたいと思います。皆様からいろんなご意見いただきました。仮称ではありますが、当プロジェクトの名称についてのご意見、そして、資料3の事業一覧のこの表がちょっと分かりにくいのではないか、見せ方に工夫が必要であるだろうということ、それから従来の子ども、高齢者、障害者など縦割りの施策を横断した事業や、全世代を対象とした事業を作り上げる視点などが重要であるというご意見、そして、男性の子育て、産後クライシスなど多数のご意見を頂戴いたしました。ご意見、本当にありがとうございました。

大変僭越なんですけど、桃山学院教育大学でも5年ほど父親教室というのをやっております、今年も6月26日にビッグ・アイで無料でお父様に来ていただいて。子育てが難しいということもあり、発達障害のことを絡めながらのお話を聞いていただいてということも計画しております。

多数のご意見頂戴いたしまして、表現方法や資料の整理など事務局でブラッシュアップしていただく必要があるかと思いますが、今回南区からご提案のあったプロジェクトをこの方向で進めていくということについては皆様よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、各委員からいただきましたご意見を参考に南区役所にてご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

4. 閉会

**区政企画室長**

部会長ありがとうございました。

また委員の皆様ありがとうございました。

本日は長時間にわたりまして、ご議論いただき本当にありがとうございます。これもちまして堺市南区政策会議第3回育ち学び充実・健康長寿推進部会を終

	<p>了いたします。 本日は誠にありがとうございました。</p> <p>閉会（午後7時58分）</p>
--	---